

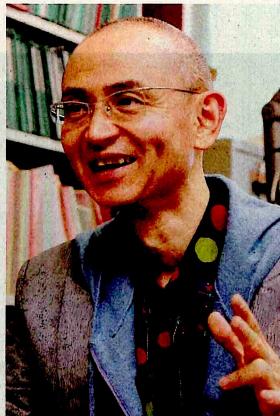
歴史学者 奈良岡聰智 × 地質学者 鎌田浩毅

危機の記録 保存が必要



ならおか・そうち
1975年、青森県生まれ。
京大教授。著書に『対華二十一カ条要求とは
何だったのか』など。

災害から学ぶ



かまた・ひろき
1955年、東京都生まれ。
京大特任教授、同名著
教授。著書に『地球の
歴史』(上・中・下)など。

大地震 社会をリセット

り、日本が生き延びられる
かどうかの瀬

戸際になりかねません。
奈良岡 西日本のリスクも
高いのですね。青森県出身の
私は、東京で大地震が起きる
と思っていたから関西への進
学を考えたのですが……。

鎌田 それで、東大に行か
ずに京大へ?

2030年代の日本は、「コロナ禍をはるかに上回る危機に直面する」。地質学者の鎌田浩毅さん(65)は、南

海トラフ巨大地震の発生などを見据え、そう警鐘を鳴らします。「一方で、日本人はあまたの災害を生き抜いてきたとも言います。今回の「令和問答」では、歴史学者の奈良岡聰智さん(45)とともに、災害の歴史から何を学び、未来をこう展望すればいいのかを語つてもらいました。

■ 迫り来る大災害の連鎖

奈良岡 ええ。浪人も京都

でした。ただ、その時に阪神

・淡路大震災も経験し、お話

をつかがつた今も、日本に安全な場所はないと実感します。

幕末期には安政南海地震

や安政江戸地震が起き、終戦

前後には昭和東南海地震や昭

和南海地震が起きた。大地の

変動に合わせ、社会もリセッ

トされたのです。

鎌田 実は、戦後の高度成

長期も、地震の静穏期とびつ

たり重なっている。本当にラ

ッキーだったことを、日本人

は分かっていませんね。

奈良岡 日本人の勤勉さや

企業努力が要因だったとなり

がちですが、幸運が重なった

上での成功だと謙虚になり、

自然的条件や地理的条件を見

直すべきです。

鎌田 そもそも、勤勉で通

用するのは大地が静かな時だ

け。阪神・淡路大震災後、地

震の静穏期は終わったのだが

、高度成長の成功体験を捨

て体制を変えていかないと。

■ ラッキーだった成長期

奈良岡 日本経済がもう少
し持ちこたえただろうという

感覚はありますね。

鎌田 すると、一直線に戦

争には突き進まなかつた。

奈良岡 かもしだれません。

鎌田 ただ、その時に阪神

・淡路大震災も経験し、お話

をつかがつた今も、日本に安

全な場所はないと実感しま

す。

令和 問答

戦後まで残っていたと思いま

す。ただ今後は被災を大幅に
軽減するため、インフラ整備
や教育などをきちんと準備す

ることが重要。他方で日本人

は、地域で助け合う自助の精

神も強い。流れ橋の思想と組

み合わせた柔軟な思考が、結

局は日本を救うと思います。

鎌田 揺れる大地に何万年
も暮らしてきても、日本人は
絶滅していません。だから今
後も楽觀しています。最終的

には若者が、社会をリセット

してくれるはずですから。

奈良岡 私は少し悲観的で

す。たしかに幕末・明治期は

若いリーダーが現れ、未経験

者も次々に登用され、思い切
った政策が実行されました。
戦後も同様に活気があった。
ただ今後、若者が変革を起こ
すでしょうか。投票率も低く、
諦めているように見える。

鎌田 ああ、たしかに。過

去の成功体験に基づいて
いるようでもあります。

奈良岡 危機に対処するに
は記録を残して公開、検証す

ることも必要です。日本はそ

れができるいないから、政策

面での継承が乏しく、人々の

記憶からも消えてしまつ。関

東大震災の研究が盛んになっ

たのは、阪神・淡路大震災以

降。歴史家としても反省しな

ければなりません。コロナ禍

の今も、公文書の記録や保存

ができるいるとは思えない。

鎌田 まさに「過去は未來

を解く鍵」ですからね。地質

学者も、地質や古文書にあ

る地震や噴火の記録から未來を

予測します。そして「長尺の

目」で見ることが大切です。

例えば地球温暖化ですが、20

世紀後半以降、噴火が非常に

少なかつたことが一つの要因

なのほど存じでしょう。18

世紀のようないくつかの

噴火が頻発すれば、火山灰が

太陽光を遮り、温暖化どころ

か寒冷化する可能性がある。

そんな発想も必要です。

*対談はオンラインで行われました。

鎌田 本当は自然災害は悪いだけではないのです。噴火が平坦な大地を作り、豊かな

水害での流失を前提に簡素な災厄をやり過ごす考え方は、

混乱しながらた。スペイン風邪から回復した作家の永井荷風は「あ

りてかひなき命を取り留めた

奈良岡 私は少し悲観的で

す。たしかに幕末・明治期は若いリーダーが現れ、未経験